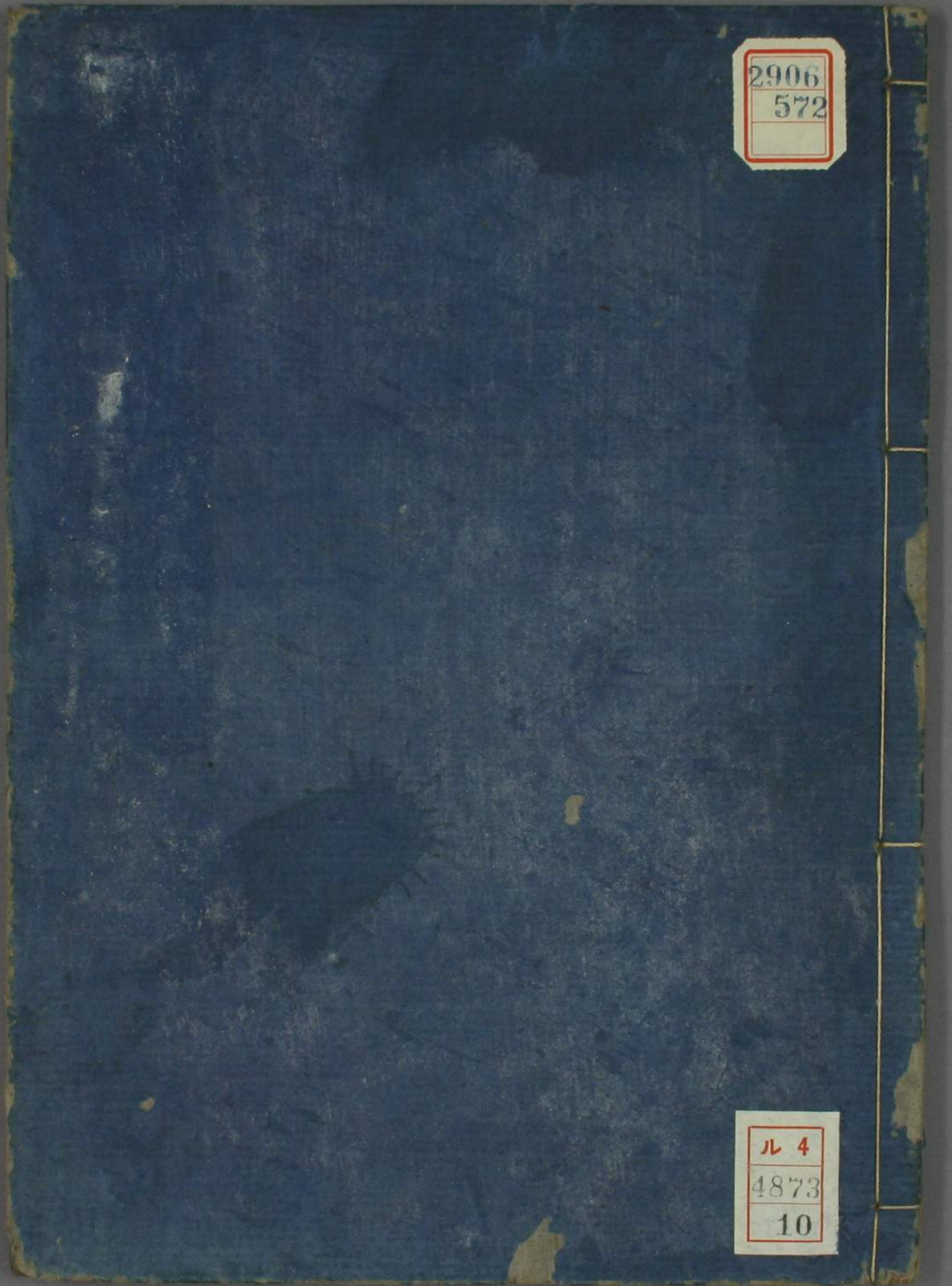


0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20

2906
572

ル4
4873
10



卷之三

2906
572
4293

5946
四庫全書
4873
卷 10

和列舊跡幽考
第十四卷 山邊郡

山邊里

石上寺 付有常田

石上 墓上布留宮 付御

宍穗宮

廣陵

廣高宮

鎮座 ○ 神庫 ○ 川上廻鍬 ○ 八尺瓈勾玉

神階 ○ 素 ○ 玉也 雲牛

神官寺

石上池

良因寺

石上溝

布留瀧

布留山

古柄小野

布留川

長屋原

都外

付櫛伐木禁削率

龍福寺

布留野

忘水

布留高橋

木殿

二階堂

食道

竹糸村の越

山邊御井

食田墓

引平山

子塚

隋奉

多因来迎寺

延喜式神衣帳

大狹眼神の社
社神
采久寺

笠間山

和別舊跡山房

萬葉集
十四巻山鳥部

卷二

王二
山邊里
象一の氣を抱くうる人娘をあら山邊里
懷中集

打

鶴の音をうきつけりやそ若のまこと

おもての後まことに
御心の如きをうなづく
千葉とておもての後まことに

生て相よ、勝上寺ハ寅連守と号
す。内作主がひのくわゆる本光

國より紀有常乃家地は南からびて有世田より
有りて有常田と云ひしむ

古今 むら乃石上寺より

石上古寺の僧の声むらりてそしりありれ 法師
は秋の偈書あるも石上寺よりとぞく洞心
えく奈良都ハ源上郡石上ハ山邊郡より衣
上もとすとすとすとすとすとすとすとすとす
てすれば石上遠くぬよむりひととて奈
良の石上と云ひゆる御方あり

頭注 密勸

玉藻 おぐりもあとてをも首の後頭也の位草
昔より延々じ時代人今もぬれよむる石上も宮内

石上

宋集

同

眞義抄

石上村とてわり 碓上 古事 石上 日本
年少也 おとてをもてて其の後也 爲美
同 おとてをもててて石上生もね葉結びとす 尖若
石上也 おとてをもててて石上ゆりめ立め立めあり友射

石上也 おとてをもててて石上ゆりめ立め立めあり友射
けひへ石上ぬるとぞありもとへ大眾よ石上
の社くみふによ布多の神とみの神はまた
おとてをもててて石上ゆりめ立め立めあり友射
やえくれ社世のとぞありれおかればまうづ
れともうとぞくいふりや 真義

陵

石上村よ一基 僧よ王墓山と云ふ一基ハ

東乃山より傍より山とも云く
傍を以てはまこと乃陵とも云ふべ

完穗賓

允恭天皇四十ニ多天皇あり後ふ多
十二月人王女一代安康天皇石上郡と
うけり後ひく完穗賓といひて日本延寶七
年より一一千二百廿六年

廣室賓

人王女立代仁賢天皇元年正月石上廣室

賓すて御位あり油也日本

帝玉編年曰完穗賓は山邊郡石上
在大臣乃家の西南有川乃もの也すり
廣室賓ハ同在大臣乃家の小なり西京

拾玉
心もむだりこぞり石上石上郡乃の月立道
師兼千首

石上石上郡よ立そり又あら秀乃春を祭る

上布留社

石上空布都御魂神社延喜

古語

鹿鳴の神宮同牀

本紀

十握劍

古語

又天尾羽張

古語

<p

波乃大蛇をさり後のそ乃尾代より後附
よ劍の水をあて鉄うちひれかばとてその尾
と割てえそをすり落へば尾乃中よ劍わり是
草薙乃劍ゆて尾張國熟田神あり蛇波
ミタク劍ハ蛇乃廉正と考一石上よしまれ日本
又天羽斬と云ふハ大蛇と取也云ふ故なり古諾拾遺
初ハ大和乃石上よゆくに後ハ常陸乃麻鳴
乃神宮よゆ正統記

韓鋤乃劍のくらりハ鋤よ仰て見よりばる
足又先師乃流ゆハ加良湊波乃くらり秋日本紀
一対絆布昂と名はきけり元事はしり布昂
の川よ一乃劍正統記をすこりゆよゆくとどり
石本といへどもやがりみやもくとるかくま

御川耳よあやー乃縣女布代わふあり
きり子の布小まのむれく劍乃ちくゆり
神と祠布昂明神と号正統記一をもむねとそ布昂
ハねのふせうぬとぞうきり麻志摩治大本紀
やせは湯窓と河げよびく兜文正統記と
手ぬく來あるより一て布昂とほり
御鎮坐ハ人王千代崇神天皇乃御宇より
神宮御釣乃御宇よ伴香色雄余字麻志摩治大
坐めて天社岡社とゆづめ八十萬群神と
其神十種乃湯窓ハ云々產靈正統記より鏡
速日もよ作りたり甚す味同鬼余よあく
それより神乎天室よもりて後は茲齋

石上の大神と号す。國家あぐめまほりより
舊事紀日本紀古後拾遠元々集神室正統
記等よくうへあり。又乃從人王十七代仁徳天
皇のゆせ布都主神社と石上乃御布殿
村乃ま庭乃地よひそひ支布川の國正神主
也そり新撰

▲神庫

牛錄

てあり。高仁天皇八十一年二月五十瓊敷命
妹の大仲媛よそり我老カミシマば神室カミシマに
どもようふづきすより後アフタ海シマけくとをき大
牛ウシ媛ウシメいよしひく神駒女カミツメ乃男めつてつゝゆて
天神庫カミシマよのぼりさんや立タチ瓊敷余カミシマ
あらば神庫カミシマうねりとけくとをくりさんあ小乃翁

うあんやとあり神乃神庫カミシマよ隨樹材スルシマツとは
是そ乃縁カミシマあり日本牛世ウシメ室シマツ乃肉ミ方立
天カミの櫛ハラわり神脊カミカニよもくひく牛世ウシメ立タチ
小梳コムラゆくゆく劍ソノあり

▲高仁天皇地九十五瓊敷余カミシマ、渟カミシマ、莞カミシマ
碑カミシマ川カミシマ上カミシマ宮カミシマ河因カミシマめて千チの劍ソノと近カミシマくらむ
劍ソノと川カミシマ上カミシマ部カミシマと右カミシマ近カミシマを又襍カミシマ件カミシマと毛カミシマだけ
て石上カミシマ神窟カミシマよ被カミシマ也カミシマ紀カミシマ日本カミシマ同御宇カミシマ八十七
勾玉カミシマ色カミシマ寔カミシマよ被カミシマ也カミシマ紀カミシマ日本カミシマ至カミシマ後カミシマ天カミ民ミン天皇
三年八月カミシマ忍壁カミシマ皇子カミシマよおカミシマ也カミシマく石上カミシマの神
官カミシマの神室カミシマとあづくりしてえがくせを下カミシマめ微
家カミシマより神府カミシマよけあくまきカミシマ寶物カミシマとその

新

卷十四

七

ふ縁よ久
トモアリ也
神體ハ貞觀九
年三月十日從一
位等上の神よ正一位
とより人所也
六等
等
聚

▲ 素の為代右用晦日み洗布よゆうゆ
劍とて嘗よあさあ多居乃かうて也
七月七日神あよ護摩と被
乃後三頃あて僧乃麻よりけとこ
きひり星と後まくとくふ山永久寺
拵尾山龍福寺うりびよ氏ふ立十余
乃僧寺わのまくてほとくめりり本
貞觀立年六月け社の南よみをの雲
るる三代實潔よゑうう

神官寺

いのくみ
石上紳官寺坐書とある。貞觀八年正
月大和國の田女八町社入乃より三代實錄不

毛
山
中
日
月
之

上池

いそみくを大ね軍乃池と坐す
石上乃池の邊より追よ湧糸山
廟塔をどみのどみの時妙明天皇大年あり
日本延寶七年正月一干十日あり

石上瀧

いぢ乃とのみ六所
東寺丹川是より
石上の膳とやらは履中天皇
十月廿日紀
延宝七年まで凡一千三百才年う

有
名
劍

いぢ乃のよのみ六町 東寺野川足より
石上の塗とやりハ履中天皇足月より日本紀
延宝七年まで凡一千三百十年う
布ぬ能
依小桃尾乃跡とひよしの上より一里東
仁和帝ゆよおりゆけ附あらは勝也從

京今あらててありと後ひきよあれ
白川百首
今色又行てもえんがや石上
御裂

桃尾山龍福寺
桃尾の鷲乃遙奇領五十石

觀音菩薩乃開基
御書は龍福寺の

義剛僧正乃開基とある

布局

万葉
石上振の山すれね相りやひらべれ原よわさ
寛
初めぬ布
身の山里ひらべ
人を人や社の見
布
野
桃尾よ行道乃龍乃馬
野

石上一ぬ野の道の草をみては水汲み又もらん
堀川太郎
千五百番合
み月雨なりの津通中くよきに草葉もくらひはる
谷玉
白雨やあさくす野乃あさくくそくとれや二病の急演
草根
洞のこあら野の病よぬぐ病じゆく勤能湯よしむひ正徹
右病小野

石上一すくすく小野毛野乃若きり石上あり
の仲通ともありすく小野とは松野
もひすくやらそれと同立音布翁の範
うれ野とゆふや
新後撰
忘水

ひづゑ一布翁の泣乃忘水よ今更よせし八
寂超
新序

散本集
み月氣のやうくすく野のことをかねて涙る涙も後頬

布翁川
水之上ハ桃尾游より西よがれ川合村う
薦行

薦本集

師承千首
み月氣のやうくすく野のことをかねて涙る涙も後頬

居より社の近くふ町ちう橋わたり
水のまどりをうちも波打くこれぬ舟船とおれ
長屋原

水のまどりをうちも波打くこれぬ舟船とおれ
山邊郡
和洞三月二月藤原寔より寧樂宮

ようけり修の附長原あみて古は
とくらむ修ひ
萬葉の明日香の里修あまば五歳りかく風大上
都大上

都介

三代寶銀傍名類聚よ山邊郡大上

しにあま風

都介の伊勢乃所宮海大上時大和國都介乃
於宮より代御大上とすもより江家大上あり
都介野大上天長義知大上の由代よ猶大上一
於半代禁大上御大上あぐくび大上つわり元
慶六年九月於將大上しも代拂大上事大上別大上
ちくま事代大上もろひとゆく大上修大上
三代寶銀傍名類聚

因村

當世因村大上一郷あり石より一里南
因村の大納言藤原朝良仲麻呂大上乃家より勝
宝四年四月東大寺の大佛開眼供養大上孝
謙天皇行幸大上てそきより因村乃家よ
還幸あり大上より御立所大上と号大上
本紀其後光
仁天皇宝龜六年三月同八年三月大上同寧
あく裏乃ゆうけ祿大上と爲大上り類聚國
史大上より

作谿村堀越而至

天平十一年十月伊勢國大上行幸大上の附山邊
郡竹簾大上村乃源通大上乃宮大上よ入大上修大上
本紀

本殿

本殿材大上とすあり石大上より十五石大上押

海浦より海入りければよきものと云ふある
やもんとうすはすりてん難とありてうとい
ひなきハ巻へとくとてよりれ
後拾遺集

名をば人走りぬしめくはあ凡をといだに

山

山邊御井

仙覓折よ修跡の國とく大邪國とく

流也ゆきバ一往あくられ

万葉

山邊乃井とぞうて神國の傳傳也女らわひ

二階堂

二階堂村よりぞうり乃堂のそまう建
立八十市郡天香久山乃ゆ表より今
はよう既一ノ久年曆とくは
二階堂ハ膳支寺と号ひ膳支姫の遺愛也

ハとてじああり本多の屋室翁蓑蘆とく
きるどくや折膳支姫とあやーの殿乃みよ
あく根折とほみうり聖德太子やのとくあ
縁ひくらむりしき妃モセ乃義子と傳モ
傳よりくらむり又ち家乃人乃みよゆり
稿寺乃折とのとくりのあやー乃賛女乃
一向虚說よて傳り先太子れ傳文よ哉つよ
諸氏乃女すの牴伏あひんれ更よ早人を
見もと記されうり膳支姫とおひす姓氏
歌よ景行天皇乃ゆ宇よ膳支乃國の姓姓
族とあり姓をねすひしくもども家の
息女あり右ハ玉林折よくうくもども家の
山邊郡の大通の東丸山邊よ山邊と

斐ひりのち傍となんしも乃わもく
あり食田乃墓をその中よてせざわらめ

食田墓

食田墓（まよごのもの）ハ平向（ひかた）香皇女（こうじょ）大和國山邊郡（やまとくにさんべんぐん）より
あり延喜（えんぎ）仁賢天皇（じんげん）乃皇女（みこ）欽明天皇（きんめいてんのう）乃

母后（おふくろ）あり

入食道

奇枕（きまく）の或（ある）ハ越中國先達大和國（えちちゆうくにせんしょくやまとくに）と云
ハ雲浦（くもうら）柳原（やながはら）川（かわ）有（あ）大和國（やまとくに）とあり云
食田乃墓（まよごのもの）石（いし）よすよりて一種（いっしやう）あり

ノ

万葉

食道（まよぢ）引平山（ひきてひらやま）而馬（ゑま）波

食道と引平山よ婦（め）と罵（のの）て山徑（さんけい）引ひきりの

明玉

紅（レ）のぬくぞアキナリ食道（まよぢ）引平山の峯（みね）の御（みやび）御頭（みやび）

支本

桿（さき）引平山財（たから）雲（くも）窟（くつ）やととて入食人（まよぢにん）後（ご）祭

千塚

二階堂（ふたかいどう）乃近山大道（おおど）の東（ひがし）の山際（さんさい）よ巖完

千塚

而（そ）くよわりうづへ色（いろ）くれねうづりあ

千塚

まくあり後（ご）よ千塚（せんづか）とひづり

千塚（せんづか）ハキシトシと申ゆりよもり（よもり）少（すくな）のきり
人（ひと）乃少（すくな）いあけりとももあくべに其賤山縣（みだるやま）
よどりとえぞりけりハ世中（よのなか）を紀（き）どよの
雨（あめ）ちゆんとゆすりてヨ乃うれ不よ巖
完（まか）とくましげりとぞり是も子のせ乃のゆや
ゆりえん

大和大國魂社

大和國魂社延喜式
大和國魂神日本紀本紀云素戔嗚尊
兜大國魂神日本紀本紀云素戔嗚尊
女神大和神

二宮大國魂神

三宮湊波比女神葛石瓶

▲大和大國魂神ハ天照大神と二神あひす
ベく天皇大殿の肉日本紀より移す事日本紀
よどゆる神代より代正統三十世紀年六百
余歲正統よりて記崇神天皇乃御宇
神勢正統と應き正統よりて往移すりやもく
ばあうわき正統ハ天照大神ハ豐瀬正統入姫命と

あく傷笠縫色正統よ堅堅正統神蘿代正統て正統
先祖正統又日本大國魂神と渟石城入姫命
城正統く由正統め移すよ渟石城入姫命
せりうたりやとく由正統車正統代正統崇神天
皇正統内肉正統すぐり疾疫正統一死亡者正統
よ也えんとく内正統七正統天皇正統半正統け化正統
め死財正統よ傷逐正統日正統姫命正統よ大物主神
都正統ひ正統岩正統又正統よ山正統復正統よ神正統ハ是大物主
神正統あり正統兜太田正統根正統代正統て正統神正統
主正統又布磯長尾正統市正統と傷國魂正統神正統
主正統と正統主正統後天正統下太平
きり正統日本崇神天皇正統より延喜正統七年

と丸千七百七十二年う

▲神陵は貞觀元の正月廿七日從一位河
もあらる。三代今ハ正一位う

承人寺寒保寺領九百七十一石

肉山金剛輪院承人寺ハ寺僧乃僧と同
俗呼ぶ。よも般院乃山經開基は欽亮禪
真言傳法乃人きり本地立銘乃こうち乃
山よして中穴よ山あり山と呼
きり承久年中乃山より剝きよも承久寺
乃名わり延寶七年延訖五百六年
蓋墨城彦後醍醐天皇之びて入
山あり又大坂寔山山號とくひを緒ひ
山是なり紀

▲真言宗醍醐金剛王院乃法流りて富山
方乃山即乃法源より

來運寺

肉山承久より三里ほどりうど

多田乃来運寺乃義導大师乃遺像ハ被大
師之代うづき之代入滅八十一年
後日城來朝乃船より天牛齋室主大統
管もくく乃浦よ着後山ふそこと乃極樂
寺也かゆ寺より人もりれわくるの春
大和國十市郡寂井乃三光寺まよしにし
仰りうが達磨元も乃亂達よつて多
田來運寺ようてしほりたの乃遺像時

ハ僧と現ト僧又化して本像となり。されど
繆愛とげげ財あり。巴も御ゆきありて人か
よみがぞその寺住す。年縁起よくうた
すり

笠岡山

あらうより立里うちり黒停駕乃の通焉
やもへ雲山御よ笠岡山ハ大和國

亀山殿七百

山邊郡神社

十三座

延喜

大和坐大國龜神社三座

石上坐布留御魂神社

祝國神社

石上市神社

卷之四

卷之四

博

新刊舊跡幽芳草

尾跋

